

## 第6回新しい学校づくり阿南市地域協議会議事録

平成20年9月4日(木)

午後7時から午後9時まで

阿南工業高等学校 会議室

### 【議事】

#### 新しい学校の教育環境等について

#### 委員

議事に入ります前に、委員の皆様から私の方から1点報告させていただきます。先日私の家に「新野高校の校地に統合存続を求める会」の方が来られました。そして関係する阿南市の議会議員と小中学校PTA関係者合計19名の印鑑が押されてあります「校地の選定」の陳情書を受け取りましたので報告させていただきます。要旨は、地元の熱意を受けとって欲しいということでした。陳情書はここにありますので、ご希望の方は後でご覧下さい。

それでは議事に入らせていただきます。本日の地域協議会は、前回、第5回の地域協議会から、約半年が経過しております。

また、第1回開催から数えてみますと、この協議会も3年目を迎えております。

さらには、人事異動等の関係で、昨年度より委員が4名替わっております。

そこで本日は、事務局にまず、あらためて第1回から第5回までの論点整理について、概要を説明していただきます。

次に、新設高校の教育内容について説明していただきます。

そして、それを踏まえて、本日の協議であります「新しい学校の教育環境等について」ご意見をいただきたいと考えておりますので、どうぞ、よろしく願いいたします。

#### 事務局

それでは、お手元の資料に沿って第1回から第5回までの論点整理について、説明させていただきます。

説明「資料参照」

#### 委員

それでは、ただ今の説明で、ご意見等ございましたらお願いいたします。

#### 委員

いろいろな意見が出されているのを見ましたが、その意見がどういう形で集約され決定していくのか、また、この中でどれが決定事項なのか、教えていただけますか。

#### 事務局

過去5回の協議を振り返ってみますと、まだ、全体的に、皆様全員の賛同を得られているわけではありません。第5回の協議会でも、設置学科についてお認めいただくよう提案をしましたが、賛否両論がある状況です。

委員

どの事項についても、最終決定はしていないと考えていいのでしょうか。

事務局

そうお考えください。

委員

それぞれの問題に対して、いろいろな意見が出ていますが、この会の協議内容の集約方法は、どうするのですか。

委員

その点についても、ご意見をいただきたいと思います。どのように最終決定するかについては、まだ、協議ができていません。

委員

今まで、それぞれの問題について、教育委員会が原案を出してきましたが、その案についても集約ができていない状況です。

委員

多数の賛同意見はありますが、全員一致の理解には至っていません。

委員

「新しい学校づくりとはいえ、再編方針に縛られるのであれば、これ以上のものは出せない。」というような意見も多かったと思います。高校再編方針が策定されていますが、この方針に沿って協議をしなければならないのですか。それを決めていただかなければ、意見の出しようもないし、集約のしようもないと思います。

事務局

再編方針が出たときと今では、阿南地域に中高一貫教育が導入されるなど、状況が少し変わってきています。皆様の賛同が得られるような方向で、いかざるを得ない気もします。

県教育委員会

高校再編方針につきましては、民間有識者を交え検討を行い、パブリックコメントにかけ県民の意見を聞き、作成をしました。県教委としましてはこれを筋とし、議論をしてもらいた

いとお願ひもしましたが、状況の変化が出てきています。そこで、地域の皆様方のいろいろな意見を出していただいた上で、再編方針と見比べてどうやっていくのか考えていきたいと思ひます。

#### 委員

手順を踏んで県教委が最終的には方針を決定しますが、判断材料として地域協議会の意見をまとめたらいいのですね。それが実現可能かどうかは、県教委に判断を任さざるを得ないのですか。

#### 県教育委員会

いろいろな議論の中で事務局としては、実現するためにはこのような隘路があるなどとお話しすることはあると思ひます。今まで県下7地域で、協議会を開催していただひています。その中で、地域協議会から最終報告書をいただき、それを踏まえて、県教委として再編計画を立てております。事務局としては、地域の皆様方の意見を大切にし、拙速に議論を進めることは避けたいと思ひています。

地域に根ざした意見をたくさん聞かせていただき、また、施設の話もさせていただき、そのあたりもすべて考慮して、地域協議会でどういう形をとっていくのかを決めていただけたらと思ひます。

#### 委員

新しい場所に新しい学校をつくるのが一番いいと思ひていますが、財政事情によりそれは難しいと言われてひいます。しかし、そういう議論をこれからも続けていいのですね。

#### 県教育委員会

続けていただひて結構です。ただ、学校施設の整備は重要ですが、現在の厳しい財政状況が続くなら、その余裕はないとお答えすることになると思ひます。県立学校には相当古い校舎もありますし、その耐震化を進める必要があると同時に、再編統合を進める上で校舎を改築する必要もあるからです。

#### 委員

財政の話が出たので、少しお伺ひをしたいと思ひます。財源は県民の税金です。現状の施設を使うとすれば、耐震改修や改築の問題が出てきます。そういう事を考えると、財政効率の観点から計画を立てる必要があるし、新しい学校をつくるのだから、お金がないのはわかりますが、もう少し中長期的な展望の中で、新しい学校づくりを考えていくべきではないでしょうか。

県教委も、県議会も、県の知事部局も、県民の意見を聞いて対処するのが仕事です。そのあたりに視点を置いてもらいたいと思ひます。

## 県教育委員会

いろいろなご意見を伺いたいと思っています。過去にも、新しい施設を作ってもらいたいという話がありました。それに対して県教委は、その意見は困りますというのではなく、その場合にはこういう問題がありますということも、同時にお話してまいりました。地域協議会の中でいろいろな意見を出していただくのは、ありがたい限りです。

## 委員

振り返ってみますと、この協議会では、様々な議論をしてきました。内容については、議論をし尽くしている感じもします。

## 新設高校の教育内容

## 委員

機械科に入学した生徒が、機械に関する最小限の単位を修得し、他はそれ以外の単位を修得して卒業した場合でも、機械科卒業となるのですね。

## 事務局

機械科卒業となります。

## 委員

この総合選択制は、絵に描いた餅ではなく、実現可能な計画ですか。

## 事務局

実現可能な計画です。ただ、論点整理にもありましたが、完全に実施するためには、キャンパスは一つになります。

## 委員

工業科を総合学科の中にも含めることはできないのですか。

## 事務局

学科の種類は、普通科、専門学科、総合学科の3種類になります。これは、文部科学省が定めたものです。したがって、総合学科の中に工業科を含めることは、制度上できません。

## 委員

工業科で取得する資格や単位などは、総合学科でも系列を工夫すれば取得できるような気がしますが、制度的にできないのですか。

## 事務局

学校が何らかの資格を与えようとするれば、カリキュラムなどその学科の内容が資格認定施設になりうるのか、各種団体から審査を受けることとなります。その際、工業の専門教育を何単位、どういうカリキュラムでどの教科を何単位以上実施するのかということが重要になってくるので、総合学科では認定校としての指定を受けられないと思います。

## 委員

今更ですが、新設する総合高等学校という形にして、機械科を機械系列というふうにし、建設系列、電気系列ともに、総合学科の系列に加え、総合選択制ができれば、一番すっきりすると思ったのですが、資格の問題があり難しいということですね。

## 事務局

委員がおっしゃるようにもっと幅広くし、商業科、工業科あるいは農業科の3つの科を併設した学校にすれば、そういうふうな隘路はなくなる気がします。これを柔軟な形にしたものが総合学科の系列で、好きなものを選択できる長所はありますが、これらを1つにまとめようとするならば、単科の3つの学科にする方がいいと思います。

## 県教育委員会

工業科などの専門学科は、一つ一つ教科を積み上げていって、専門の領域が完成していく学科です。しかし、総合学科においては、それぞれの進路に応じて、子供たちが自由に教科を選択したものが系列となります。

システムが違いますので、総合学科の中に工業科を組み入れるということは、制度上難しいということで、ご理解いただけたらと思います。

## 新しい学校の教育環境等について

## 委員

資料の中で必要施設が列挙されていますが、現在使えるものはチェックできていますか。

## 事務局

チェックできています。阿南工業に移転する場合は、現在ある施設・設備を使用します。新たに建築をしたり、実習設備を購入することはありません。

## 委員

総合学科の分もあるのですか。

## 事務局

あります。どちらかに校地が決まり、現有施設を活用し新しい教育内容を展開すると、こ

れだけの施設が必要になります。

#### 委員

施設の耐震化について説明がありましたが、施設の耐用年数による老朽度についてはわかりますか。

#### 事務局

改修や耐震化だけでは、対応できない施設もあります。

#### 委員

お金がないという話もありましたが、場所を選定する場合、新築するのか、改築するのか、あるいは耐震改修をするのか、それらを総合的に判断して金額を出してもらえませんか。その上で、場所を選定しなければならないと思います。先程も申し上げましたが、財政の効率の問題、あるいは中長期的な展望に立った新しい高校を作るとしたときのそれぞれの予算の比較も必要であり、もっと詳しい資料を作ってもらえないのですか。

#### 事務局

教育内容がきちんと固まれば、もっと詳しい資料が作れると思いますが、今の状況では、金額をきちんと提示することは難しいと思います。アバウトな金額であれば、今回の提案を認めていただければ、提示できると思います。

#### 委員

新高校での必要施設ということですが、我々が頭に描いている、工業3学科と総合学科4系列を合わせた学校を作った場合に必要な施設と考えていいのですね。

#### 事務局

校舎等の広さも関係しますが、阿南工業を校地としこの3学科で検討した場合、大学進学系の理数コースの教室が空くことになります。そういう空き教室を有効に利用すると、新野の総合学科に必要な施設をまかなうことができます。ただし、農業の温室や資材室は、新たに作る必要があります。

逆に、新野を校地とする場合には、普通科教室が不足してきます。現在、新野には空き教室がありませんので、この計画でいくと工業がきた場合、12の普通科教室が必要になり、新たに校舎を建設しなければなりません。さらに、工業の施設をすべて移転することになります。

#### 委員

数的なことは、はっきりしているようですが、校舎の耐震化などの問題もあるので、そっくりそのまま教室が使えるわけではないのですね。経費に関しても、総合的に考える必要が

あります。金額を提示するのは、難しいところもあると思いますが、ある程度金額が出なければ、議論ができないと思います。既存施設を活用することも大切ですが、私は、新しい学校づくりを考える限り、新しい場所でモデル校になるような学校をつくりたいという気持ちですが、頭から抜けません。もう少し詳しい資料を、お願いできたらと思います。

#### 委員

新野にいったら工業施設を、阿南工業にいったら農業施設を、それぞれ移転しなければなりません。それぞれいくらかかるのか、我々は、アバウトでいいので意識する必要があります。少ない予算でいい教育をするために、いかに効率的にお金を使うかということも、県民として判断させてもらわなければなりません。

#### 委員

施設のことだけでなく、教育環境のことも考えてもらいたいと思います。さらに、住民や地域との関わり方なども判断材料にし、検討してもらいたいと思います。

#### 委員

我々が今描いている教育内容を前提にして、新野にいった場合はこれくらい、阿南工業にいった場合はこれくらいかかると、アバウトでいいので計算できるといいのですが。

#### 県教育委員会

ラフに積算することは、可能かもしれませんが、きちんと設計をして積算しなければ、正確な金額は出てきません。

大規模改修をするのか、耐震補強をするのか、それとも建て替えをするのかなどは、耐久度などいろいろなものを、調べなければ判断しづらい部分があります。しかし、金額の提示を希望されているので、一度チャレンジはさせていただきたいと思います。どこまできちんと計算できるのか、我々教職員だけでは難しいところがありますので、施設の担当とも相談しながらやっていきたいと思います。この場でどの程度お示しできるのかはわかりませんが、次回までにいろいろと検討はしたいと思います。

#### 委員

例えば、教室をこの程度にし収容人数を何人にすればいくらになる、というような概算要求するための単価はないのですか。

#### 県教育委員会

あります。ただし、概算要求をするためには、どの教室がどの程度不足しているかなどをきちんと把握した上で、何階建ての建物をこういう構造で建てると、実際に計画をして概算要求をすることになります。

## 委員

前回、それぞれの経費を比較した資料を、提示してもらいたいとお願いしていました。それはきちんとしたのではなく、概算要求用の単価で積算する程度のもので十分だったのですが。そういったものがないと、考えてくださいと言われても、検討材料がありません。

## 県教育委員会

本日提示した資料で判断するのは、難しいという議論はわかります。ただ、もう一方で、積算をある程度きちんとするのもなかなか難しい作業であるということをご理解いただけたらと思います。

工業を新野に、あるいは総合学科を阿南工業に移すとなると、当然ながら移転費用もかかってきます。さらに、構造上の問題も出てきます。我々は、費用等の積算に関しては、専門家ではありません。県教委にも、施設・設備を担当する部門がありますので、そちらと十分に相談をして、ラフな金額になると思いますが、チャレンジはしてみたいと思います。

当然ながら今日の会議を迎えるにあたり、施設ともいろいろと相談はしてきましたが、実習棟にはどういう設備を入れるのか、大きな設備を入れる場合は天井を高くする必要があるなど、条件が確定しなければ、積算は難しいと言われました。そのあたりも施設担当と再度相談をしてみたいと思います。

## 委員

「事業費が多い、少ない。財政が厳しいので、少ない方にしましょう。」そういうレベルの議論をしているのではありません。お金がないのであれば、なおさら、財政の効率を考え、かなり先を見越した方針の下で、どちらにするのか、あるいは新しくするのかを含めて考えてもらいたいと思います。お金がないのはわかります。お金がない中で、いかに効率的に事業費を出していくのかということ、我々は見極めていきたいと思います。

## 県教育委員会

できるだけいい施設を効率的に作りたいという思いは、教育委員会も同じ考えです。どこまでできるかわかりませんが、関係部局と相談はしていきたいと思います。

## 委員

新野高校の施設で、体育館やグラウンドが狭いという指摘がありましたが、最近、徳島県南部運動公園が完成しました。この施設は、新野高校からわずかな距離に位置しています。今は細い道しか通っていませんが、新野高校側からのアクセス道路を造って欲しいという運動も起こっています。それが実現すれば、新野高校の教育に、かなり利用価値が出てくると思います。

## 委員

新野高校の実習地は、この資料の校地の中に含まれていますか。



## 事務局

施設等の比較表をご覧ください。農場という項目で、実習地を入れています。

## 委員

どれかを暫定的にでも提示して考えないと、議論は難しいと思います。今回は、施設内容を一応これでいった場合どうするのかというお話だったので、少し具体的だったと思います。

## 委員

今お金がないということは十分わかりますが、それだけに縛られてはいけないと思います。例えば、耐震工事をした場合と金額的にあまり変わらない中、新築工事をした場合もっと耐用年数が延びるという状況であるならば、長期的にみたらどちらが得なのかということも含めて、今の設備だけにこだわらず検討していけばいいと思います。

## 委員

両校とも、築39年、築32年となっています。いずれにしても、改築の時期が近づいてきてますね。

## 県教育委員会

土地の問題があります。また両校には、新耐震でできている施設もあります。そういう施設を活用しないというのは、非常にもったいないと思います。阿南工業には2階建ての体育館がありますし、新野にはいろいろ農業施設があります。

## 委員

全く新しいものを建てた場合、どれくらいかかるのか、参考資料として提示してもらえないのですか。

## 県教育委員会

新しい場所に建てるとすると、新しい場所の土地代も考えなければなりません。

## 委員

中の機械類などは別にして、建物だけの建築費を提示してもらえないのですか。

## 県教育委員会

現実問題として、阿南工業には耐震化されている体育館があります。それを除いて、考えるということですか。

## 委員

耐震化がどれくらいもつのか、また、新築の場合の耐用年数はどれくらいなのか、このあたりの関係もあるので、建物の建築費だけでいいのですが。

#### 県教育委員会

個々の教室をどのような仕様にするのか、移転した機械棟の大きさや天井の高さは、また、それは何階建てにするのかなど、いろいろと前提条件があります。それをどう設定するかによって、試算が大きく違ってきます。しかし、本日の会議でいろいろとご意見をいただきましたので、もう一度施設担当とも相談をさせていただきたいと思います。

#### 委員

徳島科学技術高校はどれくらいかかったのかわかりますね。

#### 県教育委員会

設計をして、現在建築中ですので、徳島科学技術高校の建築費用はわかります。しかし、阿南工業・新野を全部立て直した場合の費用は、簡単には出ないと思います。

#### 県教育委員会

科学技術高校は、かなりのバリエーションがある学校ですから、一概に比較はできないと思います。

#### 県教育委員会

比較はできないながらも、科学技術高校の建築費用は、次回提出させていただきます。

#### 委員

どちらかの校地をということで議論をしていると思いますが、これから先、20年後、30年後を考えたとき、那賀高校や海部高校のことも十分考えた上で、場所の選定をする必要があると思います。おそらく近々に、那賀高は1学年50～60名になることが予測されます。その時に、那賀高をどうするのかということもきちんと考えた上で、新しい学校づくりを考えていかなければならないと思います。

例えば、富岡東高校は、中高一貫教育を導入することになりましたが、すでに、普通科、商業科、看護科、定時制があります。そこで、商業科は新しい学校に移すとか、そういったことも併せて考えていかないと、本当に魅力ある高等学校はつくれないと思います。富岡東高校もこれだけ大きなものを抱えていると、校長先生は大変だと思います。

高校再編は、ただ単に、新野と阿南工業を一緒にしただけではすまない問題で、大きな視点で考えていかなければ、失敗すると思います。ここ数年、財政問題だけを頭に入れて、どちらの校舎にするのかを検討していますが、このままでは悔いを残すことになると思います。最終的には県教委が判断することになりますが、そのあたりも十分に検討して、地域協議会の結論にしたいものです。

## 委員

ここまでくると、我々地域協議会の範囲を越えている気がします。

## 事務局

皆様には、いろいろな教育について議論をしていただき、それも踏まえて、阿南地域の将来を見据えた上で、様々な意見を出していただけたらと思います。総合学科と工業科の単なる組み合わせでいいのかという部分を解決せずに進めるのは、いかがなものかなとも思います。これについても、いろいろな方から意見をいただきたいと思います。

## 委員

最初の頃の議論と、少し変わってきている気がします。例えば、商業科のことですが、富岡東高校は普通科と商業科が上手くいき効果が上がっているので、この形を続けるのがいいということで、地域協議会では議論をしないということになっていました。

しかし、先程話があったように、富岡東の商業科を新しい高校にもっていくという意見に集約されてもいいのですね。

## 委員

現在のところ、中高一貫教育導入後も、普通科と商業科を置くことになっています。将来的な方向として、ご議論していただくのは結構ですが、十分にそして慎重に検討していただきたいと思います。富岡東高校の商業科ということで入学している生徒もいますし、長い歴史もあります。また、富岡東高校の場合、勉強と部活の関係も出てきます。したがって、多面的な方向からの検討と、阿南を含めた南部地域全体の専門教育を含めた教育をどうするのか、中長期的な議論をしていくということも必要になってくると思います。

## 委員

阿南の地域協議会は足かけ3年目を迎えていますが、他の地域協議会と比べて、相当遅れているようなお話しでした。5回ほど話し合いをしていますが、アウトラインが見えてきただけで、今のところ決定したことはない状態です。他の地域の学校には状況の変化がありませんが、阿南地域だけは状況が大きく変わってきています。平成22年度には、富岡東に中高一貫教育が導入され、平成21年度には、富岡西に理数科が設置されます。

また、阿南市には普通科が2校しかない上に、その定員は他の地域より少なくなっています。その中で、例えば、富岡東が商業をそのままおいて中高一貫教育を実施した場合、阿南全体の普通科の定員減については、富岡西の定員増で対応するのか、そのあたりも大変難しい問題になると思います。

新野と阿南工業との再編を検討しているこの地域協議会ですが、そういった状況を受けて、大きく構える必要があるのかもしれませんが、情報がビジネス系はありますが、それが商業科を十分に視野に入れたものなのか、女生徒の受け皿としてだけのものなのかなど、ど

ういう風な位置づけの商業系列なのか、もう一度考え直す必要がある気もします。

#### 委員

再編方針には、普通科は富岡西と富岡東で、職業教育等は新しくつくる学校でと書かれています。基本的な方針からすれば、富岡東の商業科の定員を普通科にもっていき、新しい学校に商業科をもっていくなど、いろいろな方策が考えられると思います。阿南市は普通科の定員が、他の地域に比べて少なくなっています。そういうことも含めて、検討していただきたいと思います。

#### 委員

個々の具体的な話については、富岡東には富岡東の思いがありますし、商業科が必要であるという気持ちもよくわかります。しかし、個々の学校のことは別にして、我々は地域協議会という立場で阿南市全体の子供たちにとって、ベストな形を考えていく必要があると思います。

また、いつまでもこの協議会を開き続けることはできないと思います。できないことはできなくて、やむを得ないとも思います。県の財政が急に良くなるとは考えにくく、むしろ悪くなる可能性が高いと思います。我々は、どこからどうスタートを切るのか、考えることが肝心ではないでしょうか。理想的な形としては、私も新しい校舎を建築してスタートする方がいいと思っていますが、少なくともここまでは受け入れざるを得ないという部分はあると思います。

#### 委員

専門教育の中には、商業教育も看護教育もあります。それを一般論として議論することはかまわないと思います。しかし、富岡東の商業科を、羽ノ浦の看護科をどうするのかということになってくれば、それぞれの学校には歴史がありますし、関係者もいます。それ相応の議論をしていただかなければならないと思います。一般的に専門教育をどうするのか、商業教育をどうするのかというは、この会で議論をしていただいていると思いますが、富岡東の商業科をどうするのかという話になるのであれば、そこを代表する委員などが出席した上で、議論していただかなければならないと思います。近々の問題としては、難しいのではないのでしょうか。ましてや今のところ、富岡東はそういう必要性を感じていない状況です。

#### 委員

その話はよくわかります。どの学校にせよ、学校とすれば、そういうことを心配されて当然だと思います。しかし、その立場を離れて、もっと広い立場で議論して欲しいというのが私の思いです。これは新しい学校づくりです。阿南工業をつくり変えるのでも、新野をつくり変えるのでもありません。2つの学校をなくして、新しい学校をつくるという立場に立たなければなりません。そのためには、阿南市全体の高校を、全く視野に入れられないという訳にはいきません。

## 委員

最初に、再編方針の枠から出てはいけないのかという議論があったと思います。阿南工業は、校内に新しい学校づくり推進委員会を設置し、工業科の案を検討しました。現在、本校は125名の定員が設定されていますが、おそらく統合する頃には、100名を切ることが予測されます。そうした状況の中、工業教育をどうしたらいいのか考えたところ、阿南地域においては、機械・電気・建設という工業教育が必要であると思い、この案を提案しました。ただその後、中高一貫教育が導入され、富岡西には理数科が設置されることになりました。情勢が少し変わってきていると思いますので、皆様の意見をお伺いした中で、考えていかなければならないところも出てくるのかなと思いました。

## 委員

新野は総合学科です。現在の3系列が一番小規模な総合学科であり、十分な対応ができていないところもあります。そういう状況なので、この統合の際に、少なくとも4系列を設定し、情報ビジネス系列と自然科学系列を加えることによって、現在不足している部分を補いたいと思っています。さらに、総合選択制にし、そのメリットも活かしていきたいと思っています。情報ビジネス系列で商業系列を入れることによって、女子生徒の希望に対応するのはもちろんですが、商業系列そのものの魅力も提供したいと思っています。富岡東との関係も出てくるとは思います。阿南市全体で考えるべきではないでしょうか。

また、周辺地域との関係も出てくるとは思います。状況は刻々と変化しています。平成30年は約10年後ですが、その頃はかなり状況も変わってくると思います。周辺的那賀、海部、小松島のあたりの状況も、一緒に考えていく必要が出てくるとは思います。

## 委員

最後に、立地条件のことをお話しします。おそらく、これから市町村の合併は、もう一段進んでいくと思います。海部の一部とか、那賀の一部とか、阿南市に入ってくる可能性もあります。さらに、各県同じですが財政状況が厳しいので、近い将来、道州制が導入されるかもしれません。また、海部から高規格道路が延伸してくるし、横断道もできると思います。そのあたりも含めて、将来を見据えて、立地条件は考えていかなければならないと思います。

会の最初に、委員から陳情書の説明がありましたが、私も実はいただいています。関係地域の市会議員11名と、同じく小中学校のPTA会長14名が、連名で署名をしていました。もう一つ、阿南市の宝田地区から陳情書が出ていたということを知りましたので、今日コピーをいただけてきました。これは、新庁舎建設についての陳情で半年くらい前のものです。阿南市は、新庁舎建設の場所を模索していますが、阿南工業の用地に、市役所を移転・建設してもらいたいという内容のものでした。委員にお預けしたいのですが。

## 委員

その内容は承知していますので、結構です。本年度中に、建設候補地が絞られると聞いていますが、その中に阿南工業については入ってなかったと思います。

## 委員

それでは、予定いたしておりました時間も過ぎております。本日は委員の方々から、たくさんの貴重なご意見を伺いました。誠にありがとうございました。

あらためて、大切なのは阿南地域の子どもの立場に立って考えることだと再認識したところです。

阿南の子どもたちにとっていいものとなるよう、本日の協議内容を整理して、事務局・県教委の方で、引き続き検討をお願いするということで、よろしいでしょうか。

以上を持ちまして、本日の協議を終了します。